

群馬県みどり市

特集 special edition

1

林業で地方創生

『豊かな森林を真の地域資源に』 群馬県みどり市の挑戦

群馬県東部に位置するみどり市(人口51,827人(平成27年8月末時点)、市長 石原 条)は、足尾銅山の銅を運ぶ宿場町や生系の集散地、全国有数の御影石の産地として栄え、日本の旧石器文化の存在を証明した岩宿遺跡もあるなど、歴史と伝統のある地域です。

また、市の中央部から北部にかけては市面積の8割を占める豊かな森林が広がっています。この足尾山地一帯を水源とする渡良瀬川は、首都圏に水を供給する役割を担うとともに、美しい自然景観を作り出しています。

さらに、市の南部では施設園芸が盛んであり、ミニトマト、キュウリやナスなどの生鮮野菜を首都圏に出荷しています。

このみどり市において、今、地域の豊かな森林資源を真の地域資源として活用できる地域づくりにより、地域の特性を最大限に生かした地域創生を図ろうとするプロジェクトが動き始めています。

わたらせ渓谷鉄道



市内林業風景



大間々祇園まつり



みどり市ブランド(ミニトマトジュース)



『地域が直面している課題を正面から突破する』

元々、みどり市の中央部から北部では、峻険な山間部からは、スギの良質材が多く伐り出され、林業や製材業が大変活発な地域でしたが、木材価格の長期低迷や木材需要の変化等により、製材・加工業から撤退する事業者も相次ぎ、今では、市内に地域材の出口はほとんどなくなっていました。

このため、並材利用が主流となり、木材価格がかつてのように上昇するところが見込まれない中、さらにコストをかけて原木を地域外に輸送しなければならぬ環境となっています。県内他地域と比べても、この地域の林業経営はより厳しいものとなっています。

さらに、この地域では、近年、成木に対するクマ・シカによる被害が看過できない規模で発生しており、森林・林業関係者の経済的かつ精神的な負担となっています。

地域の基幹産業としての林業活動が低迷することは、地域の森林・林業関係者の体力・意欲を消耗させ、条件の良い森林以外では持続的な林業経営を厳しいものにしたたり、保育・間伐・主伐・再造林という林業経営サイクルの

持続に向け、自ら低コスト化・省力化等に挑戦することを困難にし、地域全体の活力も減衰させてしまうこととなります。

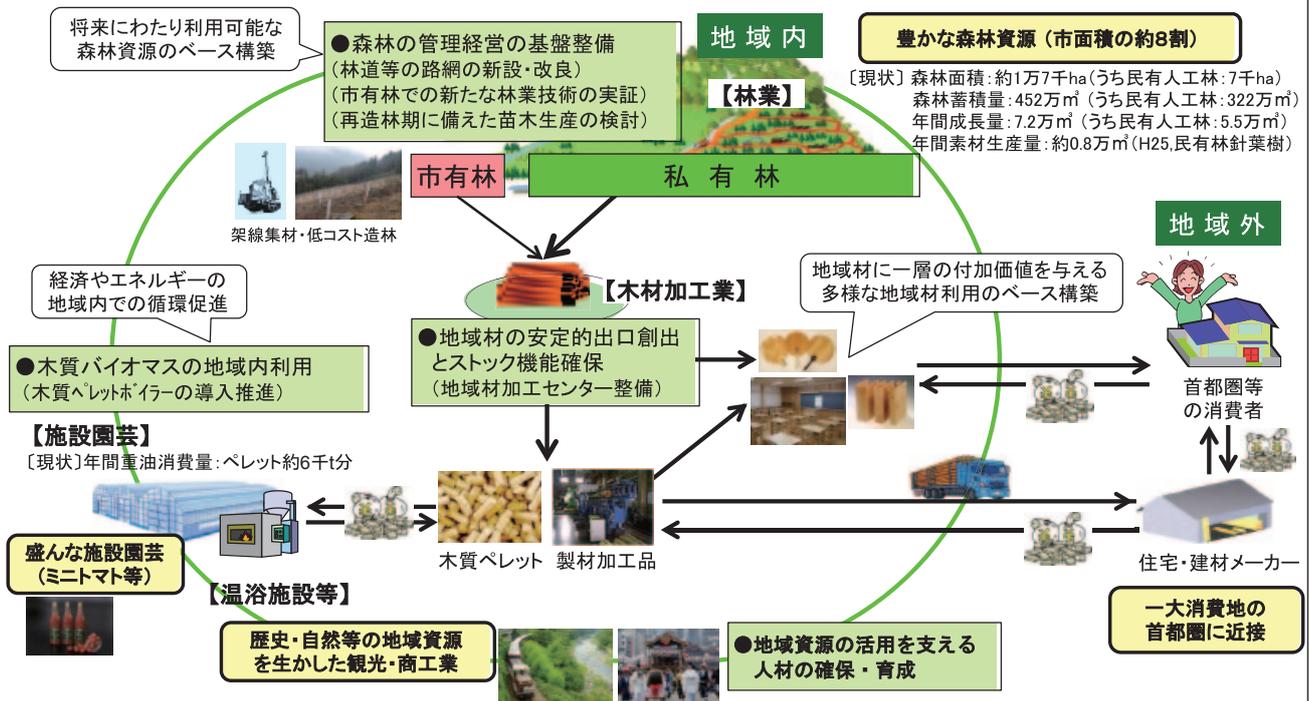
このままでは、市面積の8割を占める豊かな森林を地域の資源として有効活用できないばかりか、地域の基幹産業の低迷により地域の活力が損なわれてしまいます。

適切に管理されない森林の増加により、森林の多面的機能が低下し、地域の維持・活性化、安全・安心にも悪影響が生じるのではないかと、この危機感から、行政や地域関係者の間でこれらの課題解決に正面から取り組もうということになりました。

このような流れを受け、みどり市では、平成26年度に新たに林業振興課や東地域林業振興センターを設けるなど、地域の森林・林業関係者と協力・連携しつつ、①森林資源を経済的に有効利用できる体制構築、②将来にわたって利用可能な森林資源の確保を図り、地域の森林を真の地域資源として活用できる地域づくりに向け、取組を開始しています。

～豊かな森林資源などみどり市の地域特性を最大限に生かした地域づくり～

みどり市の豊かな森林を真の地域資源として活用できる地域づくりを展開し、みどり市の地域特性を最大限に生かした『地域創生』を図る。



『地域の資源を活かした森林・林業再生のための3つのベースを構築する』

(1) 行政と地域関係者が連携した山側のベースづくり

みどり市内の森林については、民有林が大半となっており、そのうち人工林資源については面積約8千ha、蓄積量約330万³m³、年間成長量約6万³m³となっていますが、その人工林から生産される木材は年間約8千³m³に留まっています。

今後も持続的に経営することが期待できそうな人工林の規模からすると、年間の木材生産は約2万³m³まで可能と考えられます。



高性能林業機械(ハーベスタ)による造材

森林組合や地域の林業関係者による施業集約化の取組に加え、みどり市では、約1千haの市有林を意欲ある地域の森林・林業関係者に積極的に経営委託し、市有林を核とした施業集約化を促進しています。

このほか、今年度には、この地域の森林の諸条件に対応した形で集材や再造林手法の検討が地域内で活発なものになることを期待して、経営委託した市有林の一部を新たな技術の実験フィールドとして活用していくこととしています。



わたらせ森林組合地域木材加工センター
(27年11月から本格稼働予定)

みどり市の林業振興に向けた課題と取組の方向性

課題

(1) 森林資源を経済的に有効利用できる体制構築

【現状】

- ① 森林所有者の森林経営に対する関心の広がり
が不十分
(=事業箇所の安定確保、作業効率向上に懸念)
- ② 地域材の出口(販売先)が主に地域外
(=低い材価と高い流通経費で山元の収入縮減)
- ③ 中長期的な事業量の見通しが立てにくいこと
により、新規投資が困難

(2) 将来にわたって利用可能な森林資源の確保

【現状】

- ① 条件の良いところから間伐
(=条件の良い森林ほど立木密度は低下)
- ② 材価に比して高止まりの造林経費
- ③ 野生鳥獣害によるコスト・労力の掛り増し

取組の方向性

- (1) 持続的な林業経営のためのベースづくり
 - ① 市有林等を活かした施業集約化の推進
 - ② 地域の森林の諸条件に対応した作業
手法の検討
- (2) 価格・量の面で安定した地域材の出口
創出に向けたベースづくり
- (3) 森林資源の循環と地域活性化の両立に
向けたベースづくり
 - ① 木質バイオマス等、地域材の地域内
利用の拡大
 - ② 遊休地活用と再造林期への対応に
資する林業種苗の生産

- 森林所有者の関心の高まり
- 林業などの生産活動の活発化

諸課題に対し、
地域一体となって
より積極的に対応

地域の林業が「攻めの姿勢」に

(2) 地域による地域のための地域材の出口創出に向けたべい
すづくり

今後も木材価格の上昇が期待できない中、地域の森林・林業関係者の収益を向上させ、地域の利用可能な森林資源の拡大を図るためには、流通コスト等の削減が不可欠です。

地域林業の中核として日々、奮闘しているわたらせ森林組合(みどり市東町、田川英二代代表理事組合長が「地域に木材の質・量ともに安定した出口を創出する」との観点から、「地域材加工センター」を整備することとなりました。

同センターについては、みどり市のみならず、「森林県ぐんま」から「林業県ぐんま」への飛躍を目指しており、



加工センター製材ライン(キャンターシステム)

地域の木材加工拠点

わたらせ森林組合 地域材加工センター 施設概要

【位置図】



【地域材加工センターの概要】

(1) 事業主体	わたらせ森林組合
(2) 事業地	群馬県みどり市東町荻原(工場面積 約0.6ha)
(3) 総事業費	約4億5千万円
(4) 事業量等	年間原木消費量 8,100m³(計画)
	製造製品 集成材用ラミナ(板材) 製紙用チップ 木質ペレット
(5) 従業員数	3名(新規雇用)
(6) スケジュール(予定)	平成27年4月~8月 整地・建屋建設
	" 8月中旬 原木買取開始
	" 8月~10月 機械設備搬入・設置
	" 10月~11月 試験稼働
	" 11月~ 本格稼働

【施設配置予定図】



群馬県全体にとっても、これまで県東部に不足していた県産材の出口創出に繋がるものとして、国、群馬県、隣接の桐生市からも支援を受けて地域材の加工拠点として施設整備が行われて

います。現在、工事は順調に進んでいます。この8月には原木買取を開始しているとともに、本年10月中には試験稼働に入る予定となっています。

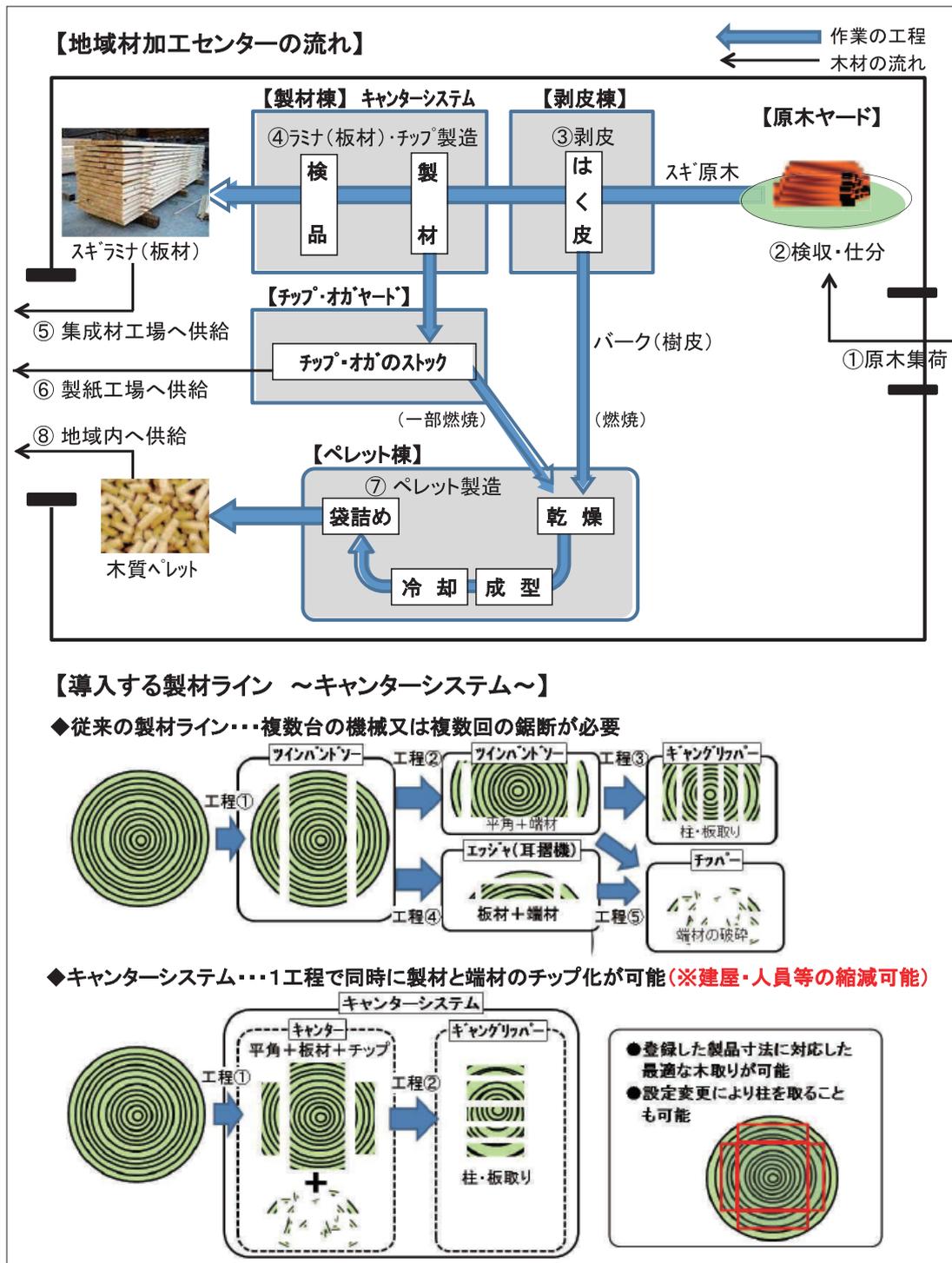
同センターでは、地域内で集められる範囲の原木量でも安定経営できるように、少設備・少人で効率的に製材・加工できるワンウェイ方式のキャンターシステムを導入しています。

当面の計画としては、集成材用の板

(ラミナ)、製紙用チップを生産し、契約先に販売することとしています。また、チップの一部を活用し、地域内の施設園芸の冬期暖房用燃料や温浴施設の燃料用に木質ペレットを製造・販

売することとしています。
わたらせ森林組合によるこの取組は、
①流通コスト削減等による森林・林業関係者への利益還元拡大
②利用可能な森林資源の拡大

③地域内における地域材のストック機能
④森林組合をはじめとした林業関係者の施業集約化への注力
⑤直接雇用の創出
⑥価格が不安定な化石燃料からの転



「地域材加工センター」の取組と連動する形で、みどり市では、市南部で盛んな施設園芸の冬期暖房用燃料や市内の温浴施設の燃料に地域の豊かな森林資源を活用できないか、との観点から、昨年度、JAにたみどり(大澤孝志代表理事組合長)の協力の下、施設園芸農家2軒に木質ペレットボイラーを設置し、1シーズンを通して実証を行いました。

その結果、特段の問題なく安定稼働し、協力した農家の方からは、「焼却灰は想定したよりも少なく、灰の掻き出し作業も大した負担にならなかった」、「重油ボイラーと比べて温風がやわらかく感じた」といった感想が寄せられました。

みどり市では、木質ペレットの利用設備の本格普及に向け、更なるデー

換による施設園芸の経営安定化
⑦地域内の経済循環の促進
⑧林業と他産業の経済的結びつきによる市内各地域の一体感醸成

が図られ、地域の林業振興のみならず、まさに地域全体の活性化に向けたベースの構築に繋がるものと期待されています。

③地域の特性を生かした森林資源の多様な利活用に向けたベースづくり



林業関係者による打合

タ・ノウハウの蓄積を図り、平成28年度以降、関心がある者への支援を検討するとともに化石燃料の価格変動リスクにも対応できるような木質ペレットの供給に向け、わたらせ森林組合や関係者と協議・連携しながら取り組むこととしています。

また、みどり市では、地域の歴史・伝統豊かな街並・景観といった特性をさらに生かし、地域の活性化に結びつくように、地域のランドマークとなる建築物への地域材の利用を積極的に推進しています。

これらの事業についても、「地域材加工センター」が地域材を地域内に一旦ストックする機能を活かすことにより、今後より一層、地域材を柔軟に活用することが可能となり、多方面で新たな利用に向けた動きが活発になると期待されています。

『森林・林業の再生を突破口とした地域全体の活性化に向けて』

行政や森林組合のみならず、地域では森林資源の有効活用、林業の活性化に向けた新たな動きも広がっています。

昨年11月には、みどり市及び隣接の桐生市の薪ストーブの愛好家らが中心となり、林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策事業」の交付金を活用し、「わたらせ薪倶楽部」(小林昇代表)を立ち上げ、作業道の開設、チェーンソー講習会、立木の伐採・玉切り・搬出といった活動を積極的に行っています。



わたらせ薪倶楽部

同倶楽部では、薪ストーブの利用者のみならず、山や林業に関心のある者に参加を広く呼びかけており、それをきっかけに山での作業に自ら楽しんで携わって技術を習得している若者も多くみられ、地域の林業の

担い手、自伐林家の育成にも一役買っています。

さらに、今年度から「緑の雇用」による森林組合への新規就業者に加え、地元の事業体にも若者2名が就労し、地域の林業の戦力として活躍しています。

また、市内では少子高齢化や過疎化により利用されていない土地も増加しており、その有効活用も課題の一つとなっています。

森林資源についても今後は、間伐から徐々に主伐・再造林期に移行し、大量の林業種苗が必要となっていくことが想定され、これらの課題の対応として、市内の遊休地を利用した林業種苗の生産についても、地域全体の創生に向け、実現できないか検討を進めているところとです。

みどり市では、これら川上から川下までの様々な取組を一体的に進め、地域の森林資源を取り巻く流れを良い方向に転換し、資源立地としてのメリットを生かすほか、盛んな施設園芸、国内最大の消費地である首都圏に隣接、豊かな自然環境や歴史・伝統といった地域の特性をフルに生かした地域全体の創生に取り組んでいこうとしています。

社会保障制度・税番号制度が始まります。
最新情報はこちらで検索 → **マイナンバー**

最新情報は

マイナンバーのホームページ

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/index.html>

マイナンバー



をご覧ください。